

イケメン教師の受難

伝説の水泳大会篇

第二卷 熱狂の校内プール

海老沢 薫 著

内容

- 著作権について
- まえがき
- 第一章 プールサイドに上がった全裸教師
- 海老沢薫 WEB LOG
- 海老沢薫 Web連載小説

※ 海老沢薫 BLOG

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ サイドストーリー 『イケメン教師の受
難 伝説の運動会篇』 や、最新作の出版情報
そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について
 「イケメン教師の受難 伝説の水泳大会篇」
 第二巻 熱狂の校内プール（以下本書と表
 記する）の著作権は「海老沢薫」にあります。
 ・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
 及び国際条約によって保護されています。
 ・ 「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し
 た場合を除き、本書の一部、または全部を、
 あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファ
 イル、ビデオ、テープレコーダー）により複
 製、流用、転載、転売することを固く禁じま
 す。
 ・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
 119条などの罰則がありますので、ご注意くださ
 い。

■ まえがき

年に一度の水泳大会が行われている高校の校内プールは、前代未聞の事態により異様な熱気に包まれ始めていた。プールのサイドを埋め尽くす全校生徒は、プールの中を一糸纏わぬ姿で泳いだイケメン教師、三神真琴の逞しい裸身に釘付けとなり、泳ぎ終えた真琴がプールサイドに上がってくると、興奮した様子で見守った。泳いでいる間に水着が溶けてバラバラになるのを興奮した様子で見守った。恥ずかしさのあまりなかなかプールから上がれずにいたが、リレーのアンカーとして泳ぐ相葉が自分の方に迫ってくる姿が見えると、ついにはプールサイドに上がったのだった。次の瞬間、男子生徒の唸り声と女子生徒の悲鳴がプール全体に響き渡り、水泳大会でまさかの一糸纏わぬ姿を晒すイケメン教師に全校生徒のギラギラした視線が注がれた。

「プールの中で素っ裸になるなんて一体何を
考えているんだ！恥を知りなさい！」
ベテラン男性教師は一糸纏わぬイケメン教師
を全校生徒の前で厳しく罵倒し、羞恥に咽ぶ
真琴に対して両手を頭の上に挙げるよう命じ
た。
先輩教師からの屈辱の命令に必死に抵抗し
ようとすする真琴だったが、ついにその圧力に
屈すると、両手を頭の上に挙げてプールにい
る全員にその逞しい裸身のすべてを晒す。
それから、イケメン教師には罰ゲームが執
行されることになり、真琴は飛び込み台の上
に一糸纏わぬ姿で立って屈辱の謝罪のセリフ
を叫ばされた後、プールサイドを四つん這い
で三周も歩かされた。
而して、哀れなイケメン教師の羞恥劇はさ
らにエスカレートしていき、ベテラン教師の
命令で第三種目の二年生による四百メートル
リレーに強制出場させられると、たった一人
で四百メートルを背泳ぎだけで泳ぐ事にな

り・・・。
勇ましく反り立つシンボルを水面から覗か
せながらプールの中を背泳ぎする全裸のイケ
メン教師は、水泳大会の格好の見世物で、プ
ールサイドで観戦する生徒達を熱狂させた。
「三神先生、〇〇がもう膨らんでいるぞ！」
「アソコの毛が何だか海藻みたいでめっちゃ
面白え！」
「先生、俺達に自慢のデカ〇〇を見せびらか
したいからって背泳ぎするんじゃねえぞ！」
プールの中を泳ぐイケメン教師に生徒達の心
ないヤジが浴びせられると、それを聞いた真
琴は激しい羞恥に襲われ、股間のど真ん中で
反り立つシンボルをますます大きく膨らませ
ていくのだった。

■ 第一章 プールサイドに上がった全裸教師

残暑厳しい九月中旬、高校の校庭の隅にある屋外プールでは年に一度の水泳大会が行われていた。プールサイドにはスクール水着を着た全校生徒がギッシリと埋め尽くし、興奮した様子でプールの中を見つめていた。水泳大会はまだ二種目の競技、一年生のクラス対抗四百メートルリレーが行われていくところだったが、すでにプールサイドは異様なまでの熱気に満ちていた。その中に佇むイケメン教師ただ一人に集中し、その眼差しからは欲情が溢れていた。生徒達の注目を一身に浴びるそのイケメン教師、三神真琴は、担任するクラスの体調不良になった男子生徒の代わりに急遽リレーに出場し、背泳ぎで百メートルを泳いだばかりだった。そして、アンカーを務めるクラス委員の相葉に無事に繋いだのだが、いざプール

から上がろうとしたその時、さっきまで穿いていた水着がなくなり、プールの中に素っ裸でいることに気づいたのだ。慌てて水着を探した真琴は水面の至る所に見つけ、水着が水の中で溶けてバラバラになっ
てしまったことを知ったのだ。徒の前を素っ裸で背泳ぎし、丸出しの股間を彼らに見られてしまったことに気づいた真琴は、プールの中で激しい羞恥に襲われ、絶望感に打ち拉がれた。ふと、プールサイドにいる生徒達を見渡すと、彼らが意味深な笑みを浮かべて自分を見つめているのが分かった。こ
んな状況でプールサイドに上がることは到底できないかった。三神先生、何をしていますか！早く上が
りなさい！見かねたベテラン男性教師から厳しい注意の
声が飛んでも、真琴は素っ裸でプールサイド

に上がる勇気が湧かなかった。
すると、そんな真琴の元にさつきクロール
で泳ぎ出したアンカーの相葉が折り返して戻
ってこようとしていた。ああっ、どうしよ
う・・・° 愈々追い詰められた真琴は水面の
中でイチモツを激しく痙攣させた。真琴がこ
のままプールの中に立っていては、クロール
で泳いでくる相葉を妨害することになり、せ
つかく一位を保っている自分のクラスが負け
てしまうかも知れなかった。
それは真琴にとって絶対に避けなければい
けない事であつた。もしも自分のせいでクラ
スが負けるようなことになれば、クラス委員
の相葉達は激怒し、担任教師である自分に途
轍もない罰を与えてくるに違いないのだ。そ
れを想像するだけで真琴は背筋が凍り付きそ
うになつた。
もうここから上がるしかない・・・° 猛ス
ピードで泳ぐ相葉の手が真琴の体に触れそう
になつたその時、イケメン教師はついに素っ

裸のままプールサイドへ上がったのだった。
「オオッー」 「キャッー」
次の瞬間、プールサイドに男子生徒達の唸り
声と女子生徒達の悲鳴が交錯した。
真琴はすぐに両手で股間を隠し、素っ裸の
まま恥ずかしそうに立ち尽くした。プールサ
イドにいる生徒や同僚教師達は皆意味深な笑
みを浮かべながらその姿を眺め、もはやプー
ルの中を泳ぐ生徒達を観ている者は誰もいな
かった。
「三神先生、これは一体どういうことですか！」
ベテラン男性教師の罵声がプール全体に響き
渡った。
プールサイドにいる生徒達は素っ裸のイケ
メン教師がベテラン男性教師に叱責される光
景を興奮した様子で眺め、同僚教師達は優越
感に満ちた表情で眺めていた。
「プールの中で素っ裸になるなんて一体何を
考えているんだ！恥を知りなさい！」

ベテラン男性教師は真琴の目の前に立つと、
全校生徒に良く聞こえるように大声で素っ裸
のイケメン教師を罵った。
「すいません・・・」
真琴には謝る以外に返す言葉などなく、ただ
頭を下げるしかなかった。
「ナニを生徒達に見せびらかしながらプール
の中を泳ぐなんて、君はやっぱり露出狂なん
だな。それなら隠さないで、両手を頭の上に
挙げなさい！」
ベテラン男性教師がそう命じると、生徒達の
興奮のボルテージはさらに上がった。
「そんな・・・」
真琴はベテラン男性教師に向かって縋るよう
な目を向けた。
こんな全校生徒が集まっている屋外プール
で剥き出しの股間を晒すなど到底考えられな
かった。
「どうした？ サツサとやらないか！」

いると、ベテラン教師は再び声を荒げた。生徒達の前で先輩教師から何度も怒鳴られた真琴は、教師としてのプライドを粉々に打ち砕かれたような気分だった。――お願いです、それだけは勘弁してください。――真琴は生徒達に聞こえないよう小声で許しを乞うた。――ダメだ！速く両手を頭の上に挙げるんだ！ベテラン男性教師は真琴の願いを全く聞き入れようとせず、再び大声で怒鳴りつけた。――男性教師を心から恨み、両手を股間から離すとゆっくりと頭の上に挙げていった。――イケメン教師の丸出しの股間が白日の下に晒される、再びプライドには男子生徒達の唸り声と女子生徒達の悲鳴が轟いた。――ああっ……みんな見ないで……。――

モツに突き刺さるのを感じた真琴は、激しい羞恥に脚元をガクガク震わせた。　「三神先生、もうこんなにアレを大きくして、一体何を考えているんだ！恥を知らなさい！」　ベテラン男性教師は真琴の股間のど真ん中で勢い良く反り立つイチモツを指差しながら怒鳴りつけた。　空から降り注ぐ眩しいほどの陽の光がイケメン教師の大きく膨らんだイチモツを妖しく照らし出し、男子生徒達はそれをどこか羨望に満ちた眼差しで見つめ、女子生徒達は口元から涎を垂らしながら欲情に満ちた眼差しで見つめた。　「ああっ、もう許してください。．．．」　真琴は両手を頭の後ろで組んだままベテラン男性教師に許しを乞うた。　「三神先生、そんなに生徒や我々に自慢の体を見られて嬉しいなら、水泳大会が終わるまでそのまま裸でいなさい！」　ベテラン男性教師が強い口調でそう命じると、

それを聞いたプールサイドにいる生徒達は湧き上がった。「ああっ、そんな・・・」ベテラン男性教師の非情な命令に真琴は顔面蒼白となった。高校の水泳大会で教師がずっと素っ裸でいるなどあり得ないことだった。しかし、ベテラン男性教師の命令は、真琴のような若手教師にとつては絶対であり、受け入れざるを得なかつた。その時、プールの中を懸命に泳いでいた相葉が見事一着でゴールし、颯爽とプールサイドへ上がると、真琴の方に歩みよつてきたのだつた。「先生、裸で泳ぐなんて何を考えているんですか！俺達勝つたから良かったよなものなのですか！俺達の品格を下げるようなマネはやめてください！」

授業であるにも関わらず、全校生徒や他の教

師達の前で担任教師を罵倒した。そして、今度は真琴を叱責していたベテラン男性教師の方を振り向き、クラス委員として謝罪をすると共に思いがけない提案をした。――僕らの担任がこんなに変態で本当にすみません。それで担任教師を更生させるために、三神先生には罰ゲームを受けてもらいたいと思うのですが、よろしいでしょうか？――相葉がそう訴えると、ベテラン男性教師は意味深な笑みを浮かべた。元々、このベテラン男性教師は夏休みに行われた臨海学校に同行し、そこで相葉に担任教師を辱めるよう指示した間柄であった。そのために、二人は暗黙の内に互いの心の中を理解し合うことができた。――良いだろう、それでは罰ゲームについて何か考えはあるのかな――

ベテラン男性教師が目の前であっさり相葉の提案を認めると、真琴は裸の体をますます震え上がらせた。

「とりあえず三神先生の露出癖を直すには死ぬほど恥ずかしい目に遭ってもらわなければならない」と思うので、飛び込み台の上に立って、全校师生に向かって大声で謝罪してもらった後、プールサイドを四つん這いで三周してもらおうのはどうでしょう？」

相葉が驚愕の罰ゲーム内容を告げると、ベテラン男性教師はニタツと微笑み、その提案を「またもあっさりと受け入れたのだった。」

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 連載小説『イケメン社長 聖哉 25歳
| 体を賭けた屈辱の取引 |』や最新作の出版
情報、そのほか各種コンテンツ情報などを配
信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『イケメン教師の受難 伝説の運動会篇』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=36195>

・ ・ ・ 二十五歳のイケメン教師、三神真琴はその端正なルックスと気さくで優しい人柄から勤務する高校で女子生徒達のアイドル的存在だった。しかし一方で、そんなイケメン教師の事を良く思わない男子生徒達もおり、ある日の放課後、真琴は担任するクラスの生徒達の畏に嵌まり、教師生命を脅かすほどの弱みを握られてしまう。その日から真琴は担任するクラスの生徒達に脅迫されるようになり、自身の教師人生を守るために彼らの奴隷として服従するようになる。時に教師としてのプライドはおろか一人の男性としての尊厳までを奪われるような屈辱を味わい、どうしようもない自己嫌悪に陥る

こともあったが、それでも真琴は生徒の奴隷として日々懸命に戦っていた。そうして、学園の一大イベントである運動会の季節が訪れ、真琴はそこでもクラスの生徒達に脅迫されてしまう。運動会はイケメン教師の羞恥ショーと化し、真琴は全校生徒や同僚教師、観戦に訪れた大勢の父兄達が見つめる前で、途轍もない生き恥を晒すことになるのだった。

『イケメン春輝 二十歳の憂鬱』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=31764>

・ ・ ・ 大学二年生の藤島春輝は、大学の学園祭のミスターコンテストに無理矢理エントリーさせられ、そのステータジ上で畏に嵌められ大勢の学生達が見つめる前で死ぬほど恥ずかしい痴態を晒してしまう。それでも見事グランプリを受賞した春輝はセレモニーとして一糸纏わぬ姿で大学のキャンパス内を練り歩き、他の学生達の見世物になつたのだった。数日後、ミスターコンテスト実行委員会の学生から連絡を受けた春輝は、毎年恒例のグランプリ受賞者の記念写真集を製作する話を聞かされる。今年のグランプリ受賞者の春輝は、学園祭のステータジ上で前代未聞の痴態を披露した事からヌード写真集にすることが決まり、実行委員会の主要メンバーである須藤から脅された春輝は仕方なく撮影に応じることになった。

り・・・。
後日、早速授業中の大教室で撮影をするこ
とになった春輝は、一番後ろの席で須藤に命
じられるまま服や下着を脱いでいき、糸纏
わぬ姿でポーズを披露する。
そうして撮影はだんだんエスカレートして
いき、イケメン学生は授業中の大教室だけで
なく、図書館や学生食堂でも極限の羞恥地獄
を味わうことになるのだった。

『イケメン社長 聖哉 25歳 一体を賭けた屈辱の取引 — 大型ショッピングモール編』

https://regimag.jp/bo/book_view/?book=18357

・ ・ ・ 吉川聖哉は、大学生時代に起業した二十五歳の若き事業家だった。頭脳明晰で抜群のルックスを持ち、社交的な聖哉はまさにイケメン社長と呼ぶにふさわしい華やかさを備えていた。

大学生の頃には、将来有望な若手イケメン社長として一部のメディアでも取り上げられるなど、他人が羨むほど順風満帆な人生を送っていた。しかし、いつしか聖哉の会社の業績は低迷し、華やかだった生活は次第に陰りを見せていく。

自分に付いてきてくれる社員のため、そして自分の理想のために会社を立て直すべく日夜必死に働き続ける聖哉。かつてはやかたつて将来有望な若手社長としてもはやさかれていたイケメン社長は、どんな泥臭い仕

事でも引き受けるようになる、心ない取引先
やユーザー達からの羞恥の命令にも従い、人
生を翻弄されていくのだった。